

ふるさと じまん

わたしのお気に入り

京都府



そうだ、
京都に行こう

丸山 康子

(昭和51年卒)

京都は日本三景の天の橋立，日本三大祭りの祇園祭，そして日本三大八幡宮の石清水八幡宮があり，自慢の故郷です。

天橋立は私の生まれ育った地でもあり，子供の頃にはよく訪れ，海水浴をしたものです。

『大江山

いく野の道の遠ければ

まだふみも見ず天橋立』

全長3.6km 幅20～170mの砂

嘴，砂地には約5,000本の松が茂り，その姿はあたかも天に舞う架け橋のよう。特に笠松公園からの『股のぞき』は股の間から覗くと，天地が逆転したように見え，龍が天に昇る様に例えられました。天橋立と文殊堂のある陸地をつなぐ『廻旋橋』があります。船が通る度に90°廻旋する珍しい橋です。宮津湾の花火大会，灯籠流しと子供の頃の思い出がいっぱいです。(写真1，2)



八坂神社は京都では『八坂さん』と呼ばれ、全国にある祇園社の総本社です。世界的にも有名な祇園祭は疫病が鎮まるようにと1,100年前神泉苑にて66本の鉾を作り、退散を祈願したのが始まりと言われています。平安時代以前から、京都を守護してきた歴史があります。平安神宮を中心に北は上賀茂神社（玄武）東は八坂神社（蒼竜）南は城南宮（朱雀）西は松尾大社（白虎）が存在しています。祇園祭も八坂さんから始まり、都大路を長刀鉾を先頭に月形鉾、船形鉾等23基が巡行します。コロナ禍で中止となっていました

が、今夏3年ぶりに行われました。(写真3～5)

石清水八幡宮は平安時代初め、南部大安寺の僧 行教和尚が大分県の下佐八幡宮にこもり、日夜熱



禱を捧げ、八幡大神の『吾れ都近き男山の峯に移座して国家を鎮護せん』との御託宣を蒙り、同年京都府八幡市男山の峯に御神霊を奉安したのが起源です。鮮やかな朱色が美しい八幡造の本殿は日本最古かつ最大規模で国宝に指定されています。現在の社殿は1634年徳川家光の命で修造されました。

(写真6)

私のゴルフメンバーコースの近くに、正寿院（風鈴寺）があります。季節毎に変わる風鈴（紫陽花、向日葵、秋桜）があります。

(写真7～9)





四季折々に様相が変わる客殿に設えられた猪目窓は、春は桜のピンク、夏は新緑の緑、秋は紅葉の赤、冬は雪の白、と美しいものです。(写真10)

三室戸寺（花の寺）西国十番札所
『夜もすがら

月をみむろとわけゆけば

宇治の川瀬に立つは白波』

春から夏にかけては、シャクナゲやツツジ、紫陽花、蓮が次々と咲き誇り、1年で最も華やかなシーズンを迎えます。花の玉手箱のような花手水、20,000株の紫陽





16

瑠璃光院

花が杉木立ちの間に咲く様は絶景です。西洋アジサイ、額アジサイ、幻の紫陽花と言われる七段花など種類も豊富です。(写真11～15)

京都は西暦794年桓武天皇により長岡京（現在の長岡京市）から中央に都が移され、『平安京』と定められました。その後身である京都はその後、1,000年以上に亘り日本の都であり続けた歴史があります。

平安時代は世界の歴史の中でもまれに見る平和な時代で、独自の王朝文化の舞台となりました。文

学の面でも、紫式部の『源氏物語』、清少納言の『枕草子』をはじめ、数えきれないほどの作品が生まれ、宇治の平等院鳳凰堂には文化の結晶が集められています。

室町時代には、足利義満を中心とする北山文化、足利義政が主導した東山文化など準日本風の文化が花開きました。彼らの邸宅が現在の鹿苑寺金閣、慈照寺銀閣です。

その後、長い間、文化、政治の中心地として、今も日本の伝統文化を象徴する都市として存在しています。

まだまだ神社仏閣、史跡等が多



退蔵院

く、ご紹介しきれないのが残念です。

コロナ禍にてインバウンドが少ないせいか、京都は全体的に空いているように感じます。

『そうだ！ 京都に行こう!!』(写真16, 17)